

大会規定

1. 大会形式

- (1) 本大会にエントリーした全 33 チームによるトーナメント方式で順位を決定する。尚、17 位以下については、順位決定ラウンドとし、3 グループ（上位、中位、下位）によるリーグ方式で最終順位を決定する。
- (2) 組合せは、以下の手順で決定する。
 - ① 2024 年度第 2 回長野県クラブユースサッカー選手権（U-13）大会の順位により決定し、合同チームとして参加したチーム及び参加されなかったチームについては抽選により順位を決定する。
 - ② 初戦敗退後、順位決定ラウンドのグループ分けは上記の手順に沿って決定とする。
- (3) 試合時間
 - ・60 分（30-10-30）
 - ・トーナメントにおいて競技時間内に勝敗が決しない場合は、試合終了の 3 分後にペナルティーキック方式により勝敗を決する。
 - ・3 位決定戦、決勝戦のみ 10 分間（5 分ハーフ）の延長戦を行う。
 - ※延長戦に入る前のインターバルは 3 分、延長戦のハーフタイムはインターバル無し、PK 戦に入る前のインターバル 1 分。
- (4) 順位決定ラウンドの各ブロックの順位決定は以下の通りとする。
 - ① 勝点 勝ち＝3 点 引分け＝1 点 負け＝0 点とし勝点の多い方を上位とする。
 - ② 勝点と同じ場合は、当該チーム同士にて勝利した方を上位とする。
 - ③ 勝点と同じ及び当該チーム同士が引き分けの場合は、当該チーム同士の得失点差で多い方を上位とする。
 - ④ 当該チーム同士の勝点及び得失点差が同じ場合は、当該チーム同士の総得点の多い方を上位とする。
 - ⑤ 当該チーム同士の勝点及び得失点差並びに総得点と同じ場合は、抽選により決定する。
- (5) セミマルチボール方式（ボールは連盟で用意）を適用し、効率的な試合運営を行う。
- (6) MWO の設置
 - ・運営担当チームが全試合担当ものとする。（出来るだけ有資格者が望ましい）
 - ・運営資料 5-2 を試合数分用意する。

2. 競技規則

公益財団法人日本サッカー協会発行の「2024/2025 サッカー競技規則」による。

3. 審判

- (1) 本大会の審判は、日本協会に登録した審判員にて行う。
- (2) 審判は、参加チームの帯同審判員で行う。よって、各チーム必ず 2 名の審判員を登録すること。
- (3) 主審、第 4 の審判員ともに 3 級以上としユース審判員を指導出来る者とする。
- (4) ベスト 8 以降の副審は、16 歳以上の者とする。
- (5) ベスト 8 以上の試合の審判は、代表者ミーティングに参加し、その後審判団の打合せを行ってください。
また、試合開始の 5 分前には選手確認及び用具チェックを行い、試合終了後に反省会を行うこと。
- (6) 審判証のチェックは、会場本部の競技運営担当チームが行う。
- (7) 審判員は、試合終了後、「審判報告書」に氏名や必要事項を正確に記入すること。また、主審は、「公式記録」の内容を確認し、主審署名欄へサインを行うこと。
- (8) 主審は、警告・退場があった場合は「重要事項報告書」へ必要事項を正確に記入すること。

4. 選手及び役員の登録

- (1) 選手 30 名以内、役員 7 名以内とする。但し、試合毎にベンチに入れる人数は、選手 20 名以内、役員 5 名以内とする。
- (2) 選手及び役員の登録変更並びに追加は、9 月 3 日(水)の 18 時までと、9 月 11 日(木)の 18 時までの 2 回認める。
- (3) 背番号のみの変更は認めない。

5. 代表者ミーティング

- (1) ベスト 8 以上の試合のみ試合開始の 70 分前から会場本部にて行う。
- (2) メンバー表、選手証、またエントリー変更がある際は用紙も持参すること。
- (3) メンバー表においては、先発する選手の背番号に○、ベンチ入りしない選手は取り消し線を引くこと。また、ベンチ入りする役員に順位を付け、ベンチ入りしない役員は取り消し線を引くこと。尚、役員の順位づけについては、監督を「1」とし、事情により監督がベンチ入りできない場合は、それに次ぐ役員を「1」とすること。

6. ユニフォーム及び用具

- (1) 公益財団法人日本サッカー協会の「ユニフォーム規定」による。
- (2) ユニフォームの色は、本大会に登録したものを着用すること。以降の変更は認めない。
- (3) フィールドプレーヤー・ゴールキーパーともに正副で異なる色のユニフォームを携行すること。
- (4) シャツの色彩は、審判が通常着用する黒色と明確に判別出来るものでなければならない。
- (5) アンダーウェアについては、シャツの袖やパンツの裾から出る場合は、チームで同一色でなければならない。
- (6) ソックステープやセパレートタイプのソックス等を使用する場合は同系色のみとする。
- (7) チームのキャプテンは、アームバンド（キャプテンマーク）の着用を義務づける。
※ただし、着用するアームバンドはチームが以前から使用しているもので可とする。（単色で『C』などの文字が入る）というものにこだわるものではない。
- (8) ユニフォームに広告を掲示する場合は、日本協会の「ユニフォーム規定」に基づき承認された場合のみ認める。但し、ユニフォーム広告掲示により生じる会場等への広告掲示料等の経費は当該チームにて負担すること。また、ユニフォーム広告掲示を承認されたことが証明出来る内容のものを大会期間中は携行すること

7. 試合球

長野県クラブユースサッカー連盟で用意する

※長野県クラブユースサッカー連盟 試合球 アディダスオーシャンズコンペティション(AF571CO)又はアディダスコネクト 24 コンペティション(AF581CO)

8. 選手確認及び用具チェック

- (1) 試合開始の 5 分前から行う。
- (2) 先発選手は、審判団から選手確認及び用具チェックを受ける。
- (3) 交代選手は、第 4 の審判員から選手確認及び用具チェックを受ける。

9. 選手交代

- (1) 登録された交代選手最大 9 人の内 9 人までの交代を認める。但し、再入場は出来ない。
- (2) 選手交代の回数は、1 試合 3 回までとする。（1 回に複数人を交代することは可能）
- (3) ハーフタイムの選手交代は交代回数に含まれない。
- (4) 脳震盪による交代は上記とは別に認めるものとする。なお、詳細な運用に関しては、以下の規定に基づき対応する。

ア：「脳震盪による交代」を適用するかどうかの判断は当該チームのスタッフが行うものとする。

イ：脳震盪による交代の場合、一度通常交代によって退いていた選手の再出場も可能。・上記は交代要員の選手が残っているかいないかにはとられない。

ex) 2 名のみ登録の GK を通常交代させた後に脳震盪による交代が必要になれば最初の GK に戻ることが可能

ウ：交代回数 3 回を使い終わっていた後でも脳震盪による交代は可能である。

※ただし、脳震盪による交代は 1 試合で 1 度のみ

エ：交代回数 3 回に至っていない場合、脳震盪による交代は回数にカウントしない。

※ただし、脳震盪による交代と同時に他の選手も後退させた場合は交代回数としてカウントし、別途に交代回数が追加されることはない。

オ：「エ」に関しては、対戦相手チームに与えられる「追加の交代要員」に関しても同様に適用される。

カ：交代手続きについて

- ・今年度使用の「選手交代カード」を使用する。
- ・「脳震盪による交代」の欄に「○」を記入して交代手続きを行う。
- ・「脳震盪」による交代が行われた場合、第四審は相手チームの監督に、その旨を伝え、「追加の交代」が可能であることを伝える。
- ・相手チームが「追加の交代」を使用する場合、「脳震盪による交代」の欄に「追加」と記入する。
- ・脳震盪による交代が行われた場合、公式記録担当者は「公式記録の自由記述」の欄にその旨(チーム、背番号、氏名、時間、起こった事象)を記載するものとする。

(5) メンバー表提出後、試合開始時間までの間にケガ等特別な理由により先発登録された選手が当該試合に出場することが出来ない場合は、先発登録された選手の変更を認める。尚、この場合の措置は選手交代に当たらない。また、当該選手はその試合に交代選手としてベンチに入ることを認める。

10. 警告・退場

- (1) 大会期間中に警告の累積が 2 枚になった選手は次の 1 試合に出場できない。
- (2) 1 試合中に退場を命じられた選手は、グラウンドの外に出ること。また、退場を命じられた選手は、次の 1 試合に出場できない。尚、それ以降の措置については県協会規律委員会にて決定する。

11. 飲水タイムとクーリングブレイクについて

日本サッカー協会(JFA)が定める「熱中症対策ガイドライン」を適用

【実施ルール】

- ・WBGT25℃以上で両チーム事前合意の場合、飲水タイムを実施可能
- ・WBGT28℃以上の場合は飲水タイムを実施
- ・WBGT31℃以上の場合はクーリングブレイクを実施

尚、上記の適用期間は 9/1 までと定められていることから、本大会において実施するかどうかの最終決定は各会場のチーム関係者、審判団、競技運営担当チームを中心に決定すること。

各参加チームは熱中アラーム(WBGT 測定器)を携帯すること。

12. 荒天、雷、地震、濃霧、その他不可抗力による試合の中断・中止について

- (1) 一般社団法人長野県サッカー協会 3 種委員会が定めるものにより、以下の通りとする。
 - 試合開始～前半終了時：中断してから 1 時間後に再開できない場合は、ペナルティーキック方式により勝敗を決する。
 - ハーフタイム～後半終了時：試合終了とし、その時点で試合成立とする。勝敗が決しない場合は、ペナルティーキック方式により勝敗を決する。

※落雷の予兆（雷鳴、雷光）があった場合は試合を中断し、再開は雷鳴、雷光が止んでから 20 分後
- (2) 最終的な判断は、競技委員長が行う。

13. その他

- (1) ピッチ内公式練習
 - ① 第 1 試合においては、試合開始の 60 分前から 50 分間とする。
 - ② 第 2 試合以降においては、前の試合終了後から試合開始の 10 分前までとする。
 - ③ ハーフタイム中のピッチ内練習については、当該チームのみとする。
- (2) 交代選手のウォーミングはボールを使わず、ベンチ後方にて行うこと。なお、ベンチ後方が狭い等、ウォーミングアップを行うのに十分なスペースがない場合は、本部の指示に従うこと。
- (3) 交代用紙は記入漏れが無いように、且つ、選手の氏名及び背番号、監督の署名を正確に行うこと。また、交代によりフィールドを退く選手は、近くのタッチラインより背番号を見せて速やかに退き、ベンチではユニフォームではない衣服及び決められたビブスを着用すること。
- (4) 選手の装飾品については全て禁止とする。また、医療用の固定具等において、審判が危険であると判断した場合は、それらを外さなければ試合に出場することは出来ない。尚、それらを外して試合に出場する場合、該当選手が試合開始時間に間に合わなくても試合を開始する。
- (5) チームベンチは、対戦表の左側に記載されているチームを、会場の本部からグラウンドに向かって左側のベンチとし、対戦表の右側に記載さ

れているチームを、同様に右側のベンチとする。

- (6) 大会期間中の負傷については、応急処置を含め全て各チームの責任において行うこと。尚、大会参加者は、健康保険証を携行すること。
- (7) 各チームは、大会参加前にチームの選手の保護者及び応援者に対して、マナー遵守について指導をしておくこと。また、応援及び観戦は、原則としてベンチの反対側とする。
- (8) 全会場のグラウンド内は禁酒、禁煙とする。喫煙は指定された特定の場所にて行うこと。
- (9) トイレ、水飲み場はきれいに大切に使用すること。
- (10) ゴミの後始末は各チームの責任において行うこと。
- (11) 本規定に記載されていない事項については、大会委員長及び本連盟競技委員会において協議の上、決定する。
- (12) 大会要項及び本規定に記載されていない不合理な事象が発生した場合は、本連盟の理事会において協議し、その後の措置を決定する。